文献紹介

人文地理学会編
『人文地理学事典』
丸善出版　2013年９月　761頁　20,000円＋税

本書は，人文地理学会が1945年から５年ごとに地理学関係の文献を集めて第12集まで編集・刊行してきた『地理学文献目録』に代わって，世界の地理学研究の動向を見据えつつ，日本における人文地理学の歩みと現状を俯瞰するために編纂された，学会の刊行物である。

本書の「刊行にあたって」の冒頭に記述されている「本事典は，最近の地理学の内外の動向を踏まえながら，わが国独自の地理学発展も考慮した，分野・トピック別の重要項目を学術的に詳述したわが国で最初の本格的な中項目主義の人文地理学事典です。」の文章は，本書の特徴を端的に表現している。

すなわち，本書は小項目レベルの用語を解説する辞典ではなく，中項目レベルの用語ごとに地理学の発展過程と現状を解説するために編纂された，事典なのである。

編集委員長の野間晴雄氏は，本書を編集した目的を，「刊行にあたって」の文中に「本事典は，国内外のさまざまな地域スケールでの人文地理学の重要な概念・事項を，的確かつ平易なことばでコンパクトに説明することを目的としています。」と記述している。わかりやすい言葉を使って，各記述項目の内容を読者が容易に理解できるように説明することが，本書の目的なのである。

また，野間晴雄氏は，「刊行にあたって」に本書の特色を４つ記述している。

(1) 広い意味での人文地理学の分野全般の重要事項を網羅して記述するために，次に列挙する８つの大項目に12～71の中項目を設定して，250人ほどの分担執筆者が，268項目を執筆した。

第Ⅰ部　学史と理論の系譜（項目数は32）
第Ⅱ部　基礎概念（項目数は18）
第Ⅲ部　手法・ツール・スキル（項目数は37）
第Ⅳ部　社会・経済・政治・文化と地理学（項目数は48）
第Ⅴ部　地域にアプローチする地理学（項目数は32）
第Ⅵ部　歴史にアプローチする地理学（項目数は18）
第Ⅶ部　さまざまな事象・課題に取り組む地理学（項目数は71）
第Ⅷ部　地理教育（項目数は12）

(2) 各項目は見開き２ページか４ページで完結させ，記述する地域のスケールに留意しつつ，事項を的確に定義し，学史を含めて解説する。また記述に図表を加えて，読者の理解を助ける。

(3) この事典の読者は，大学で地理学を学ぶ学生から，地理学研究者，地理に関わる教育現場の教員，地理学の隣接諸分野を学ぶ人々を想定して編集した。

(4) 項目ごとに参照項目と「さらに詳しく知るための文献」を記載し，巻末に「引用文献」「事項索引」「人名索引」を付して，多角的な事項検索ができるように工夫した。

本書は，以上の編集方針にもとづいて作成されている。

歴史地理学に直接関わる記述は，第Ⅵ部の「歴史にアプローチする地理学」に，およそ古い時代から新しい時代の順に18項目が設定されている。

歴史地理学
歴史・遺物と考古地理学
都城と国府
条里制と集村化現象
歴史都市の空間構造
近世・近代の水運と流通
町場と在郷
城下町
街道と古道
新田開発と集落
移民と植民
近代移行期の人口現象
近代の歴史地理学
近代都市の類型と発展
近代都市の内部構造
市町村制と地域の編成
近代植民地の都市と地域
都市史研究と地理学

本書の価格は一般読者が購入する水準より桁数がひとつ大きいので，図書館などの公共施設や大学の研究室の書架に置いて利用されることが多いであろう。

したがって，配架場所へ出かけて行って本書を初めて使う読者は，まず「凡例」に目を通して，使い方の要領をつかんでから，検索したい項目を読まれることを勧めたい。

正直なところ，記述内容の難易度は項目ごとに様々である。1度読んだだけで記述内容がわかり，その項目の全体像を把握できそうな項目がある一方で，引用されている文献を読まないと執筆者が意図する内容がわからない，難解な項目もある。

難解な語句や解説に遭遇した場合は，おそらく本書の隣に配架してある地理学に関わる辞典類を参照しつつ読めば，理解が深まるであろう。

本書が多くの人に活用されることを期待したい。

（有薗正一郎）